

## ヴァイオリニストTAIRIKの戯言

〔第67回〕

## 弦が揺れると、僕は季節の風になる

文 佐田大陸 text by Tairik Sada

## 花粉系ヴァイオリニスト

花粉症泣かせの時期が今年も到来しました。今年は例年の倍以上花粉が飛んでいるらしい。この時期にコンサートがあると、どううまくやり過ごすかに、全精神を費やす日々を過ごします。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とはよく言ったもので、シーズンを過ぎるとつらさをコロッと忘れて生活していたことを、毎年この時期に思い知らされます。

昔からアレルギー性鼻炎や副鼻腔炎といった症状とはうまく付き合ってきたつもりでしたが、今年はさすがに病院に行かないとお話にならないくらいの症状が出たので、しぶしぶ近くの耳鼻科を受診してきました。

「症状は？」と聞かれたので、「鼻水とくしゃみがひどいです」と答える。「鼻の通りは？」と聞かれるので「大丈夫です」と答える。

鼻の中を一通り見た医師が一言。

「うーんこれはひどい！これで鼻の通りが大丈夫だと感じるんですか？アレルギーの慢性化で感覚がまひしていますね。もし受験生が明日受験といたら、100%ステロイドを出しちゃうレベルですよ」

一概に眠くなる薬の効果が高いわけ

ではない。継続的に飲んだからといって、薬に耐性がつくわけでもない。それぞれの体質により効く薬は変わるなど、合理的な薬の知識や副作用について一通り教えていただきました。

ステージ前になると遮断された空間なのか、いつも不思議と本番までには症状が落ち着きます。それについても、そのお医者さんいわく「本番に向けて、無意識のうちに自律神経をいじって鼻の通りを良くしているだけなので、花粉の反応が改善されたわけではない」。特に今年のように花粉の絶対量が多い時には警戒が必要らしいです。

昔、音大生が花粉症の悪化によりたどった悲劇を聞いたことがあります。卒業試験でヴァイオリンコンチェルトを弾いた学生が、最初の数小節でくしゃみをして、そのまま演奏終わりで10分間ひたすらくしゃみをし続け、何を弾いているのか全く分からなかった、という逸話です。

「あれはかわいそうだったわ」と当時の偉い先生が言っていたみたいだけど、無事に卒業できたのだろうか。

花粉症になると、謎の先輩面をした花粉症の人から「こっちの世界にようこそ」という文言で仲間に見られた記憶があります。たしかに仲間意識が芽

生える気もするが、それがきっかけでできた親友は一人もないので、やはり花粉症にはならないに越したことはありません。

この例年の倍以上の花粉の量で、こっちの世界に入ってくる人が多くなり、僕が「ウェルカム！」と先輩面する機会がないことを心から願います。

## profile

TAIRIK(たいりく)Violinist/Violist/ Composer

長野県諏訪市出身。桐朋学園大学音楽学部、同大学院修了。

2008年12月にヴァイオリン & ピアノによる3人組インストユニット「TSUKEMEN」を結成。2010年3月にメジャーデビュー。デビューから500本を超える公演を開催し、現在までに40万人以上の観客を動員。LIVE活動は日本国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパに及ぶ。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。コンサート、作曲活動の他、「徹子の部屋」「題名のない音楽会」等数多くのTV番組に出演。2021年より、NHKきょうの料理「栗原はるみのキッチン日和」にパートナーとしてレギュラー出演中。

<https://www.tsukemen3.jp>

